

## 平成31年度愛媛県公立学校新規採用教職員辞令交付式 教育長あいさつ

平成31年4月1日（月）  
生涯学習センター 県民小劇場

平成31年度愛媛県公立学校新規採用教職員辞令交付式に当たり、一言ごあいさつを申し上げます。

小学校教諭209名、中学校教諭104名、県立学校教諭82名、養護教諭26名、栄養教諭3名、実習助手5名、寄宿舎指導員5名、海技士1名、そして学校事務職員33名、合わせて468名の意欲と情熱に満ちた皆さんを、愛媛の教育界にお迎えしたことを、大変うれしく、心強く思います。

先程、それぞれの代表者にお渡しした辞令書には、愛媛の教育界に新しい風を吹き込んでほしいと願う県民の期待や、子どもたちの健やかな成長と幸せを願う保護者や地域の方々の熱い思いが込められています。この辞令書の重みを、一人一人しっかりと感じていただきたいと思います。

今、我が国の教育は、10年に一度のペースで改訂される学習指導要領の移行期にあります。2020年度の小学校から順次完全実施となる新学習指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現がクローズアップされています。他にも小学校外国語科の導入など、時代の変化に応じた教育内容が示されています。ここで忘れてはならないのが、不易流行という言葉があるように、変えるべきもの、変えるべきではないものを見極めた上で、教育関係職員として何を身に付けるべきかを考え、自ら研究と修養に努めることです。「教員は学校で育つ」と言われます。仲間とともに、子どもたちとともに学び続けてほしいと思います。

さて、昨年7月の西日本豪雨では、本県でも多くの方々が被災し、8か月たった今も、その爪痕は各所に残っています。被災したある中学校のホームページに「被災後、生徒たちはたくましくなりました。今年の漢字は「災(わざわい)」と聞きましたが、本校の一字は、みんながつながり成長した【絆】だと思います。」というメッセージがありました。

子どもたちは、被災体験から多くのことを学んでいます。テレビや新聞では、命の尊さ、助け合い支え合う大切さなどに気付き、自ら考え、自ら行動する子どもたちの姿が何度も取り上げられました。

これらの報道に触れるたびに、愛媛の子どもたちのもつ素直さや、根気強さに胸を打たれ、彼らを誇らしく感じてきました。また、子どもたちと日々懸命に向き合っている保護者や地域の方々、先生たちに対しても深い敬意を抱いてきました。

将来を予測することが難しいと言われる現代、われわれ教育に携わる者には、どんな困難な状況に置かれても、将来への希望を持ち、前向きに生きる子どもたちを育て

るという使命が課せられています。一人一人が大切にされ、仲間と楽しく学び合い、存在感や自己実現の喜びを実感する中でこそ、子どもたちは今を前向きに生きることができます。苦労を共にし、喜びを分かち合う経験は、やがて大きな絆となり、困難に直面したときに、その絆が壁を乗り越える勇気や生きる支えとなるはずです。

これから始まる新規採用教職員としての歩みにおいても、絆は重要です。子どもたちや職場の人たちはもちろん、保護者、地域の人たちとの絆を大切に作る姿勢を持ち続けてほしいと思います。

また、働き方改革がいわれていますが、自らの人生設計の中で、ワーク・ライフ・バランスという視点を忘れず、まずは、皆さんの健康を第一に考えてください。

終わりに、一日も早く、子どもや保護者、地域の願い、時代の要請に応えられる教職員へと成長されることを期待し、挨拶いたします。